京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金 ▲五號活字詰一行一圓▲大十錢▲一號欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久[illegible]
印刷人 松久神一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

●迎年雜感

金衣公子

◎何時の間にか舊を送り新を迎へて了つた下宿の一室に籠居してゐる身には山中暦日なしと云つた譯でも無いが便毎に舞ひ込む金賀状と屠蘇機嫌に筋肉の弛んだ赤い顔の友人が鹿爪らしく『シルクハットにカリロックと思はれる古着屋仕込みや紋付袴と云つた業々しい姿が只漠然と新年だなア…と云ふ感じを呼び起こさせるに過ぎ無い一盃の屠蘇と雜煮の餅三片とでは嬉しいとか樂しいとか云ふ氣分には什麼しても成ることが出來ない此日を待ち望んだ幼時の歡樂を想ふては泣きたくなる

◎乍然刹那挺のことを陳べたからとて決して超越してゐるの解脱したのと云ふ譯では無論ない獨身生活の單調と寂寥さに捉はれてゐる私には世間の人達が有つ期待と憧憬と喜悦と歡樂とを有つことが出來ないので是れは偽らざる私の告白である

◎が然し新春を迎へたる以上明治四十五年に處する私の覺悟否將來に對する希望は在る古諺にも『一年の計は一月に在り』で餘程慎重なる態度を以て臨まねばならぬことは言を俟たない官吏會社員と云つた社界には年末賞與とか慰勞金とかに依つて懷中は温かい商人とか職人とかにしても平素の月に較べて如何に不景氣を叫ぶも收入は豐かである隨つて調子に乗つて濫費することは免かれ難い窮處に借金なるものが生ずる借金で首は取られないとは宜く云ふことだが人は借金の爲めに往々罪惡を犯すものである少なくとも處世上の重荷の一つであることを忘れてはならぬ

◎人は誰れでも將來に對する希望を有つてゐる或は理想とも謂ふであらう如何なる階級に在る人にせよ希望を滿たすが爲めの方法は一つである各自の執務に忠實なることゝ蹈わざる努力とであるゲーテの詞に休まずに急がずにと云つた言葉は面白いと思ふ信仰の劍と與實の衣に身を堅め勇敢と進取との旗を翳して向上の途を辿るべきである

◎正月は[illegible]家の内外共に[illegible]となく種々な遊戯が催ふされて一年中の歡樂は此の月に纏められたかの感がする就中く盛んなのは歌留多會である一室に一家親族親友の老幼男女が團欒して夜の更けるをも知らずに樂しく一夜を送るのは家庭の娯樂として歡迎する乍然見ず知らずの青年男女が手を觸れ膝を交いて熱中してゐる態を見ては寒心せざるを得ない成程戀愛は美しいものであるかも知れないが春情發動期にある是等の人達が之れが動機となつて墮落の淵に沈む幾多の事實を見ては恐怖せずには居られない

◎世の親に一言したい卿等の愛する賢息令孃の理性は胸の奥底に燃ゆる情慾を抑へ得る程に充分發達してゐないことを忘れてはならぬ是等青年輩の道義心は然うして誘惑に打勝の力に缺けてゐると注意を怠つてはならぬ異性に飛び付きたい又は對手に縋へ付けられたいと云つた情感に捉はれた人々に取つては一層危險である而して多くの人は斯ふした徑路を辿るものである野暮の様だが男女七歳にして席を同うせずと云つた時代に於てさい多くの事實が現出されたもので若しも之れを放任したら曉否放任しつゝある今日に於ては手綱を離れたる奔馬の如くに其の底止するところを知らぬと云ふ恐怖し戰慄すべき結果を來たすのではあるまいか

●やはらき

霞州

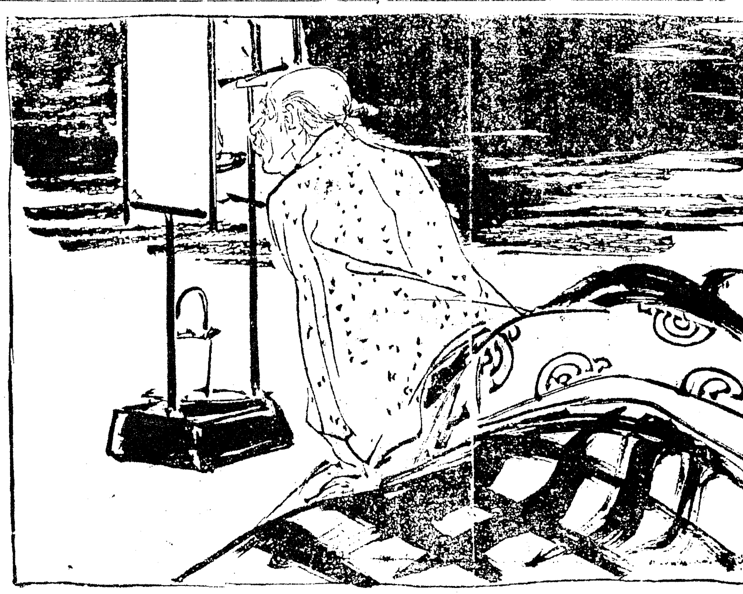
夜の眠りは東の空から醒めて黎明の清澄の氣が漲つてゐる南山を包んだ灰色の霞が次第に薄れ行くと東の嶺を鎖ざした暗灰色の雲が先づ動き茜色に空がボカされた一秒！二秒！三秒！金色の層雲が湧き起ると壯重な森嚴な旭日が嚇々として姿を現はして燦たる光輝は天地に滿ちた丁度光榮と尊貴とを滿ちつた威嚴嚇々たる帝王が新らしい世界に君臨する時の光景を想ひ浮はせて莊嚴な神秘的な感に打たれる

萬象に新生命を與ふる軟かい力のある光線を浴びて南山は微笑んだ如に眼の昨日まで世の終りの調づいた悲しみ[illegible]色變へて生のために[illegible]んでゐた人の[illegible]の顔も[illegible]うに[illegible]付きの色が[illegible]の氣が家の内外に[illegible]

梁川庄八（やながはしやうはち）

第六十九回　小金井蘆洲演

長『當然出すべきなら夫りやあ十兩は扱置き、百兩でも二百兩でも出しもしやうが、謂れのない金は錢一文でも出す事は出來ぬ、のみならず夫んな事をしては後來村方の者に對して第一顔向けが出來ぬ、假令砂利の上に座つても此金は俺には出來ねへから、汝が借り申した金なら何も俺に相談には及ばねへから汝から返せ』勇『阿父さん夫慾事を仰つしやつても私には一文でも錢は持て居りません、有つた所がチヨイ/\に貰ひ申した小遣ひくらゐなもの、夫れも今日落して了つたのでございますから、私から此方に御返し申す譯には行きません、何うか然う云はずに[illegible]



長『喧ましいいけるいけねへもあるものか、汝が何處へでも飯炊奉公にでも住込んで主人に能く譯を話し、給金の前借をして當座幾許でも差上げ、後は年賦と云ふことに御掛合申して五ヶ年賦なり、十ヶ年賦なり自分相當の年賦にして取つて貰い申すが宜いや』と云ふ言葉に勇吉は顔の色を變へて鎚めしげに親父の顔を見詰めて居ります、才助も意外の挨拶に『コリヤ呆れた、俺に云ふ守錢奴金の番人だ、斯んな理も非も判らぬ者に理屈を云た所が仕方がない』と諦らめて了つた、流石は伊達家で千五百石の祿を食んで居た人だけあつて、發藥賓は變へて居ても腹には何處までも侍、殊に度量の廣い人でございますから、大目に開いて何々と打[illegible]ひ 才『御當家の御主人は生命より金錢を大切になさると云ふ御先祖の語し[illegible]金子は親子の仲でも他人と極めた言葉で大概後の事は問かんでも判つて居るもの、御言葉は道理の極に達して居る、宜しい、固より私が其金を直にお貰ひ申したいと云た譯でない、諸り此方の御主人の推量から私が催促でもするだらうと思はれての事かは知らぬが、何も親御様に係合た金子ではなし又金錢で人の生命が救へる位なら私は其金の方に付きたいと程に思つて居る身は卑しき薬賣ではムるが、強ち金錢にばかり目が暮れて居る拙者でもムらぬ、其十兩の金子を御子息に進せたなら差支はありますまい、と云ふと長左工門は顔色を和げて 長『夫れは何うも結構な思召で有難たうムります、遉が世間を渡つてお歩きなさるお方は亦格別のことで、忰に下さる……遉がに什うも、辭退なしに御禮を申します、勇吉手前も有難たうムいまするとお禮を云へ、男たる者が一度齒から外へ出した以上は其金を以來返へせとは、よも被仰るまい愚闇々々しないでお禮を申せ、何故而う變な顔をして默つて居るのだ折角下さると云ふのにお禮を言はぬとは人様の御親切を無にすると云ふもの、俺が改めて汝に代つてお禮を申します『實に卑劣な事と云つたら言語同斷、現代語で云へば破廉恥極まる親爺、義理も人情も知らぬ不埒な奴でムいます、勇吉は我が親ながら愛想を盡して默つて居ります、親爺は夫れから機嫌が直つてチヤホヤ才助に世辭を云つて居りましたが、早や夜は更けて只今で申せば十時過ぎ將に十一時にならんとしまする、勇吉は氣の毒に思ひながら才助に向つて『誠に相濟みませんが明日お歸りの節までに才覺して御返濟申しますから何うぞ親爺の詞はお氣に掛けて下さらぬやう 才『イーヱ御心配あつては宜しくない實は今晩歸りたいのであるが、此の矢先きに歸ると申せば何か御主人の云た言葉が氣に入らんで、腹立紛れに戻つたやうにも見わ勇々男の一分が立ちませぬから今晩は御當家に一泊致します、明朝は御主人にお目に掛らんで歸りますから何うか其れ含みで……と挨拶して逆に長左工門に向ひ、御主人今晩は御厚意に甘へて一泊致し[illegible]に掛らんで歸りますから[illegible]いたら、勇吉[illegible]の方へお連れ申せお枕元に貫や行燈の用意をさして進せろ、慣れぬ座敷で云ふものは兎角不自由なものだから、戸惑せぬやう能く案内して進せろ 才『就ては御主人今晩は是れにて御紹介に相成ります、勇吉は案内して母屋を離れて四十間程裏手に建つた離れ座敷へ連れて參りました、斯う云ふ客商ではあるが矢張り外見はあると見え、中々立派な建築是れは定めて隠居所でムいませう、六疊八疊の座敷中が四疊それに押入戸棚、美盡し善盡しと云ふ程でもムいませぬがマア美事な離座敷でムいます

軍艦朝鮮號の献納提議
陛下御還暦奉祝の爲め

本年は、我　明治天皇陛下　御還曆に當らせ玉ふ。伏して以みるに、皇統連綿として百代に亘りて益々昌に、國運進張して千載を經て愈々大に、六千餘萬の臣民は帝德の至厚なるに感泣し、三千餘里の領域は皇化の普及に抃舞す。是れ實に世界萬邦に匹儔無き所にして宇内の驚嘆して止まざるものなり。欽て惟みるに、皇上陛下、允に文に、允に武、乃ち聖にして、乃ち神、百王の皇謨を紹ぎて大に宏廓を計り、列聖の餘烈を承けて更らに伸張を講じ、短を去り、長を採りて、精華を世界萬邦の中に拔き、旰食し宵衣して聖慮を理世安民の上に勞し、心を六合に周ねくして諮詢已む無く、躬萬機に當りて、勤勞逸し玉はず、皇猷は獨斷に歸して維新の大業を企て玉ふと雖も、庶政は輿論に從ふて憲政の運行違ふこと無く、新令は舊章と調和し、創業は守成に融合し、一怒して天下定まり、再征して邊塞清く、北虜は其强暴を悔い、南夷も亦愚頑を革め、古より未だ拓かさるの境を開き、從來未だ順はさるの區を順へ、内にして文教治產の法具はらざるなく、外にして禦侮折衝の道講せざるなく、國力茲に張り、國威これ揚る。是を以て天瑞並び臻り、地靈切りに現はれ、百姓鼓腹し擊壤して、聖德を謳ひ、萬邦梯航して朝に玉帛を獻す、嗚呼隆なるかな、此巍々赫々の功、穆々蕩々の化は、記註の克く之を全ふし、贊揚の能く之れを頌する能はざる所にして、大凡載籍ありしより未だ曾て之れあらざるなりと稱せらる。吾人等幸に此聖代に生る。聖恩の深厚なる誰か日夕之を思はざらむ、而も陛下御還曆に當らせられ、聖壽之より益々永からんとする本年に於て、皇仁の博大を感想せる念一層切なり。殊に皇化に浴せしが爲に始めて塗炭の苦患を脫し光明ある生活を成すを得るに至りし鮮民及び　皇の御稜威あるに賴つて各々其業に安んじをる在鮮內地人は、知らず何を以て　我皇御還曆に對し奉り慶祝の意を皇家の繁榮と邦國の隆昌に致さんとする耶。

想ふに、本年の　陛下御還曆御慶事大典に際し臣民擧つて奉祝の意を表すべきは勿論なるが、吾人は此御慶事に當つて、我半島の鮮人內地人の悉くが應分の醵金をなし、之を以て軍艦一隻を建造し朝鮮號と命名なし、大元帥陛下に奉獻する事の、光武允神なる　陛下の大御心に副ひ奉るは固より、國家の進運に資することの大なるを思ひ、在鮮臣民の此擧に出でむことを切望して已まざるなり。而して植民地より皇室に紀念的獻上をなすことは既に英國各植民地にれいて其例の開かれしのみならず、曾て我　東宮殿下御慶事の折柄、在布哇本邦人の獻納金等に因り東京に紀念美術館の建築せられたる事さへあり、況んや半島在住臣民の如き從來軍備費の負擔をなしをらず、且つ又現下必要に迫られつゝある海軍擴張の實行せらるゝことありとするも其資金を公課せらるゝこと無きものにあつては、自から軍艦を建造し之を獻上することの眞に國民奉公の誠を露すものなるに於てをや。然かも獻上の軍艦は必ずしもドレッドノート型の如き巨資を要するものたるに及ばず唯在鮮臣民の資力と相待ちて建造し得らるゝものにて可なり、則ち水雷艇若くは潜航艇或は水雷驅逐艦にても可なり、要は在鮮臣民が　皇に盡すの赤心を披瀝するにあり。若それ此擧を爲すの手段としては今より　陛下御還曆奉祝會を設け醵金其他之に關する事務を掌理せしめむか、蓋し目的を達すること異に容易なる可きを信じ、吾人は茲に新年初頭の論壇に於て此事を在鮮官民諸士に提議すと云爾。

東京電報

▲**孫黄の來京說**　中華民國政府の首腦孫逸仙黄興の兩人相携へ不日我東京に來るべき旨某所に電報ありこれ日本政府に對し中華民國政府獨立承認を要求せん爲ならんとの說あり

▲**乃木大將叙勳**　乃木大將は英國陸軍子爵會の名譽會員たるの故を以て最高バッス勳章を授けられたり

▲**革軍の統治機關**　三日南京に於て副大統領選擧を行ひ黎元洪當選せり又各大臣の任命を行ひ陸軍部長に黄興、海軍部長に黄同榮、內務大臣に程德全、外務大臣に王兆慶、司法大臣に伍廷芳、敎育大臣に崔源陪、財政部長鎮金重、交通大臣に陶壽仙實業部長張謇等なり

北京特電

▲**御前會議と旗人**　北京　朝廷の御前會議は何等決する處なくして終りたり是れ袁世凱が革命軍に對する懸引上態度不明なるが爲めにして一方旗人中には保皇義會を組織し袁を攻擊するより袁は益々窮地に陷りつゝあり

▲**議會開會地**　袁は國民議會を北京に召集せんとし革命軍の同意を得んが爲め唐紹怡に電命せり若し此希望にして革命軍の同意を得ざれば袁世凱は第一期の大統領たる望を達するは困難なりと云ふ可し何となれば國民議會を北京に召集するは北京政府に對する一種の信任投票なればなり

▲**北京政界不安**　袁の媾和談判開始は却て窮地に陷り中外に對し亂臣賊子の名を得ん事を恐れ不日其職を辭し河南に起臥せんとするの決心ありと傳へられ北京政界は不安の念に滿ち而して袁辭職は北京革命の波亂を大ならしむるものなりとするもの多し

▲**唐紹怡辭職す**　袁世凱は唐紹怡の辭職を許し自ら北京に在りて媾和談判の衝に當ることに決せり

▲**皇太后と內帑金**　袁世凱より平和の望みなく戰爭準備の爲め軍費金を要求し來れる爲め皇太后は內帑金三百萬兩を貸與へらる

▲**二十鎭兵叛す**　欒州の第二十鎭兵叛軍に豹變し北京を衝かんとす爲めに北京は動搖す

雜報

●**日銀より借入金**　朝鮮銀行が貿易決濟資金正貨準備補充及び事業公債引受の爲め日本銀行に向かつて一千萬圓借入の件を申込みたることは既報の事實なるが右に關する日本銀行の諾否は未だに決定せざる由

●**日本銀行より檢査**　朝鮮銀行は日本銀行の代理店として國庫金の取扱を爲しつゝあるが日本銀行の檢査係川田敬三氏外二名は過日來朝鮮銀行に就き國庫金に關する諸帳簿及び在貨等の臨時檢査を行ひつゝあり

●**事業公債外國行**　本年度事業公債の殘額及び來年度同公債の全部を日本興業銀行に托し外國市場に賣出さんとの議目下當局者間に起れりとの說あり尙聞くところに由れば總督府は該公債引當にて某外國銀行より既に數百萬圓を借入たりとの說あり

●**勅語と訓令**　別項朝鮮敎育勅語に關し寺內總督の各道長官及各官立學校長に發せし訓令左の如し

謹テ惟フニ我カ　天皇陛下夙ニ臣民ノ敎育ニ軫念シタマヒ嚮ニ敎育ニ關スル勅語ヲ宣セラレ今又之ヲ朝鮮ニ下シ賜フ是レ帝國敎育ノ本義ヲ明ニシ一視同仁民衆ヲ子愛シテ其ノ藍本ヲ作リ管內ノ學校ニ職ニ在ル者ハ常ニ之ヲ奉體シテ生徒ノ薫陶ニ努メ殊ニ學校ノ式日ニハ恭シク之ヲ奉讀シ生徒ヲシテ夙夜服膺セシメ以テ敎化ノ實ヲ擧ケ聖旨ニ奉答セムコトヲ期スヘシ

●**勅語謄本配布**　寺內總督は四日官立諸學校に對し曩きに下賜されたる勅語謄本を配布したるが其勅語は去る二十三年十月三十日下賜せられたる敎育勅語と同樣なり

●**百萬圓以上の分**　▽移輸入超過品

四十四年一月より十一月に至る移輸入超過額は三千百九十七萬四千五百二十四圓なるが右移輸入超過の原因を爲したる重なる商品及び價格は左の如し

綿布	千廿六萬九千三百五十三圓
雜品	八百九十萬三千九百六十圓
小包郵便	三百五十五萬四千三百五十五圓
飲食物	三百九萬二千五百二十圓
綿絲類	二百三十九萬三千三百六十六圓
油及蠟	百七十四萬一千百九十四圓
藥材及染料塗料	百十八萬六千二百八十一圓
砂糖及蔬菜類	百十五萬四千七百七十八圓
酒類	百九萬五千五百三十圓
麻布	百卅九萬六千七百七十三圓
衣服及附屬品	百三十一萬四百八十八圓
紙及紙製品	百六十七萬六千八百十一圓
鐵及鋼	百八十六萬一千七百五圓
金屬製品	百七十八萬二千六百廿四圓
車輛及船舶	百二十一萬五千百六十二圓
學術品及機械	百五十五萬三千六百五十九圓

●**昨年の貿易概觀**　…淺野三井物產支店長談…

朝鮮昨年度(四十四年)の貿易は移輸出入共一昨年に比して增加して居るが移輸入は春以來著しく增加し續ひて其の後は增加の一方を以て遂に昨年を通した而して之れが原因は種々あるが自分の考ふるところに依れば朝鮮に於ける起業の資金ツマリ鐵道工事等に要する材料の資金及び勞金が一般に散布されたことゝ一方には昨夏朝鮮に於ける米豆が一般に高價を保つた爲め從つて農民の懐工合が好かつたことだらうと思ふ而して之れが救治の方法としては種々あるだらうが要するに此の一般に散布された金を生產的に使はず貯金を奨勵するなり又は割增付債券を發行するなりして可成生產的に使用することに努むることが肝要である併し現時の貯金奬勵方法にては何うだらうと思ふ何んとか好い方法がないものだらうか……此の方法さへ講じて一日も早く實行さへすれば移輸入超過敢て恐るゝに足らず次に朝鮮昨年の米穀の出廻りは非常に鈍いが之れは朝鮮曆には閏年があつた爲め時期の關係もあるだらうが一は昨年は內地人の資本家が遣つて來て朝鮮人の內地田畑を買ふものが割合に多いので從つて鮮人の懐工合が一時暖かくなつた爲め高値を豫想して出し澁るのであらうが此の現象も確かに移輸入超過の原因を爲して居る而して世人の或るものは斯く朝鮮人の農民が米穀を出し澁るのは地方に於ける金融機關の設備が追々完全になつて來たからだといふが自分の考へてはソウでなくソレは表面の想像に過ぎないだらうと思ふ

各銀行會社營業成績(其一)
第一銀行京城支店　…四十四年度下半期…

四十四年度下半期に於ける第一銀行支店營業成績は預金計二百五十二萬圓貸出同百六十七萬圓にして此他預金は四萬九千圓貸出は一萬圓の他店關係のものあり即ち預金總計二百五十六萬九千圓貸出總計百六十八萬圓にして之れを前年同期に比較すれば預金は總計に於て九分定期に於て三分を減じ當座に於て約五分の增加をなし又た特別當座に於て約五分の減額を示し貸出は定期に於て二割八分の減を示し當座に於て一分の增加を來しつゝあり而して四十四年度に於ては十二月末に至り通知貸出なる一口座あれど是れ同年度に於て初めて設けたるものにて比較の限りにあらず又た同年度定期貸出が上記の如き非常なる減額を示すに至りたるは一に政府貸上げ金の償還ありたるに起因するものなり尙ほ同半期利益總計は五萬七百八十四圓五十二錢にして前年度同期に比し三割三分の減を示せり

●**昨年の朝鮮貿易**

昨年の朝鮮貿易額は輸出貨物千八百三十三萬餘圓輸入貨物五千二百七十四萬餘圓にして合計七千百七萬餘圓に達し之を四十三年に比較するときは輸出は一割八分を減じ輸入は三割三分を增し合計に於ては一割九分の增加にして又た之を四十二年に比較すれば輸出は一割三分輸入は四割四分を增したる結果合計に於て三割四分の增進を示したるが更に金銀貨幣及地金の出入を觀るに昨年の輸出額は千二百七十六萬餘圓輸入額は四百七十三萬餘圓にして合計千七百五十萬餘圓を示し之を四十三年に比すれば出入を併せ五割八分を增加し又た四十二年に比較するときは一倍二割二分の激增を呈せり然れども昨年金銀の出入特に增加したるは鑛業の發展に伴ひ金塊の輸出增進せること其の一因たりといふも而も主なる理由は金貨及銀貨の出入例年よりも特に多かりしに基くものなりと

●**總督府の御用始**　四日總督府に於ては御用始めを爲し午前九時寺內總督登廳各部長官を招集し一場の訓示あり續て政治初めとして敎育勅語頒布の訓令を下したり尙ほ同十一時總督始め一同退廳山縣政務總監は桑原秘書を從へ警務總監部の消防出初式に臨場せり

●**官公衙の御用始**　別項總督府を始め總監部、軍司令部、京畿道廳、京城府廳、民團役所、商業會議所其の他銀行會社は四日御用始を爲たり

●**總督の記者團招宴**　寺內總督は在京新聞通信員及び特派員を官邸に招待新年の祝宴を開催する由なるが日は六日なりといふ

●**李王家新年祝賀**　李王殿下には一日午前九時仁政殿に於て李王職高等官以下の祝賀を受けさせられ了て內殿に各御親戚の祝賀あり再び仁政殿に出臨祝酒を上げられ十時三十分總督府御訪問總督との祝詞交換あり了て更に德壽宮に太王殿下の祝賀を述べられ午後三時歸館せられたり

●**總督邸新年宴**　三日寺內總督は其官邸に於て李王殿下、李剛殿下、李熹公殿下を始めとし朝鮮貴族李完用、朴齊純、李秉武、閔憲植及各部長官、山縣政務總監を請待し新春の宴を催ふせり

●**總督の新年宴會**　寺內總督は五日各部長官及び各局課長を官邸に招き新年宴會を催うすべし

●**總督の領事招宴**　寺內總督は來る八日各國の總領事及び領事を官邸に招き新年の祝宴を開催すべしと

●**總督李王家訪問**　二日寺內總督は李王家各殿下を訪問新年の御慶を述べたり

●**年頭郵便物比較**　(舊臘)　京城郵便局にて舊臘十五日より二十九日迄に取扱ひたる特別郵便物(年賀狀)の數は三十七萬四千〇六十四葉にして之れを前年度の二十九萬二千七百〇四葉に比すれば八萬一千三百六十葉を增加したりと尙舊臘十八日より三十一日にいたる七日間の間に取扱ひたる普通郵便物は(年賀狀も含む)九十五萬一千九百九[illegible]通にして之れを前年度の六十六萬四千六百三十九通に比すれば二十八萬七千三百五十三を增加したるが更に之れを一日より三日迄の引受と配達に分け其の數を揭ぐれば引受は一日二十萬九千二百九十八通二日七萬四千七百七十八通三日四萬五千〇九十八通にして配達は一日二十三萬六千九百十六通二日十萬九百三十二通三日六萬〇百十八通なりといふ

●**名刺交換會**　新年名刺交換會は一日正午より南山町高等女學校に於て開催さるゝ之れより先き日鮮人の貴顯紳士一千餘名は或は腕車にて或は徒步にて會場に集り爆竹を合圖に開會す最初古城民長の開會の辭あり次て檜垣道長官壇上に立ち　天皇陛下の萬歲を三唱するや衆之れに和し終つて一同乾盃して相互の健康を祝し一時全く散會したり

●**軍司令部御用始**　龍山軍司令部にては四日午前十時より柴參謀長以下各部長並に部員一同參集上田司令官より御用始の挨拶ありたり

●**內務部長の會議**　各道內務部長會議は客年十二月十五日より開會の筈なりしも寺內總督の歸任期延期されしを以て同會議は自然延期されたる次第なるが諮問案等に各部より提出の問題等は何れも完成し居る事とて本月十五日よりは必ず開會すべしといふ

●**雜誌朝鮮及滿洲**　壬子の歲を迎ふると共に雜誌朝鮮が朝鮮及滿洲と改題した從來は名稱の如く朝鮮內に範圍が限定されてあつたのが此の號から範圍が擴大されて滿洲に迄及ぶ譯である表紙は前に比し僅かに氣が利いてゐる圖案も中央に鴨綠江の流れを挿んで鷄と龍が相對してゐるのは面白い內容も亦頗る豐富となり主張には旭邦子の『新領土の開拓經營を怠る勿れ』『朝鮮及滿洲』會心の文字である論說には岡崎遠光氏の『朝鮮財界小觀』エヌケー法學士の『朝鮮の憲法問題は如何に解決するか』工藤法學士の『法律統一史論』久能省三氏の『朝鮮經濟界の前途如何』龍岡再生氏の『京城の市區改正に就て』談叢には小松綠氏の『朝鮮統治上の苦心』安達代議士の『朝鮮開發の二問題』國澤滿鐵副總裁の『南滿洲の經營』相賀大連民政署長の『大連に於ける民政』野津正隆銀行支配人の『滿洲金融界と革命戰』其他研究、雜錄、文藝、調査資料の各欄を通じて朝鮮及び滿洲に志あるの士に取りて有益多趣味のものを滿載してをる(一冊二十五錢京城旭町二朝鮮雜誌社發行日韓書房にて發賣す)

●**宮尾拓殖局部長の來京**　拓殖局宮尾部長は過般來滿洲各地を視察中なりしが來る七日平壤經由來京すべしと

公人私人

▲ドラボマレード(佛國武官)一日入京天眞樓二日安東へ
▲井上德次郎(陸軍省經理部員)浦尾へ
▲富家正義(參政局技師)原金へ

▲京城手形交換高▼

	枚數	金高
一月四日	九八七	一六二、九二五、三四〇

▲治外法權▼

今上陛下の御齡も愈六十一を算するに至つた、六十一と云へば乃ち還曆である、吾人赤子たるもの、祝して亦た賀せざるべけんやである▲我社說子は云ふ陛下還曆の御祝として、吾人半島の日鮮臣民よりは朝鮮號と銘打つた軍艦一隻を獻納すべしと、想ふに軍艦の獻納は良い思付きだ、併し軍艦が餘り高價で纏まらないとすれば、潜航艇でも水雷艇でも乃至は驅逐艦でも良い、一千二百餘萬の日鮮人が一ショになつてヤレばコレ位の獻納物を作る金が集らぬことはあるまい▲暮より春に掛け何々府縣人忘年會及び新年宴會と云ふのが幾らもある、或人の曰く、何々府縣人會は餘りに狹過ぎて興味が薄い、併し强いてやらうと云ふなら、ソレも良からう、ダガ府縣人と小さな墻壁を設けてヤル位なら一層の事同族の意味に於て佐藤とか中村とかの同姓會を作り、忘年會とか新年會とか乃至は懇親會とか云ふものを其會でヤッてはドーカと▲成程聞いて見れば同姓會には多少の興味がある、大方の諸君試みに一つヤッて見てはドーカ▲府縣人會と云へば、ドレもコレもお國自慢で持切つて居る、尤もお國自慢も名物の松茸や鹽辛などを云つて居る中はヨイが、出身人物を云々するに到つては鼻持ちがならぬ▲ヤレ己れの縣からは大山東鄕の兩大將が出て居る、ヤレ已れの縣からは山縣桂等の偉人が出て居ると、夫はそれは騷々しい事で話にならぬ▲記者は決して出身人物に因つて其府縣の優劣を判ずることはなさぬ、併し强いて口角沫を飛ばし記者に向かつて來るものがありとすれば、下の如く答へる、曰く、我日本の各府縣中大人物の輩出に因つて最も偉いのは云ふ迄もなく京都だ、見よ、今上陛下は京都の御生れではないか、見よ皇后陛下も同地の御生れではないかと▲本新年はイツになく警察事故が尠なかつたとの事だが、之れも不景氣の爲めであらう▲記者年始の廻禮中新聞紙檢閱官として日頃の敵役たる境警視に會つた、警視莞爾余と共に大白を擧げ、自作の漢詩を歌ふ、曰く威風凜々八道振、初辭居蘇化育仁、正氣發處英風靡、旭旗超海萬里春、と、虹畑萬丈中々當るべからずであつた。

●**臨時休刊**

五日は新年宴會に付六日の本紙休刊す

東京電報

▲東京大相撲番附 東京大相撲一月場所番付明五日午前五時發表せらるべし而して初日は來る十日と決定せり（四日着）

●鴨綠江の橋と氷（一）

天眞生

眼が覺める、硝子窓を透して隣る家の赤煉瓦の塀を眺める、雹とも雪ともつかぬ雜種のものが降つて居る如だ、餅の焦げる如な香がする、ア、元日だナと氣が注く、と同時に又僕は今朝安東縣へ向けて出發する人なんだナ、と氣が注く、昨夜焚いて貰つた温突の暖みが背に春の日の如だ、チラと外の方を見る、相變らず何やらがチラ附いて居る、太々神樂の太鼓の音も笛の音も、鳥追ひの其三味の音も追羽根の羽子の空に飜る響も無い朝鮮の元旦、淋しいとはないが一層の靜さを覩じて眼を瞑つて居る、ト耳許でモウ八時ですと叩く、八時？今更に僕は九時四十分南大門驛發の北行列車に搭乘して鴨綠江の橋と氷とを見に行く筈なんだ、と氣が注く思ひ出すと今年……イヤ明けたからモウ昨年の正月も『京義沿線を視察致します』と廣告して宅に賴て終つた事があるのだ、本年も又左樣では濟むまいと義理ヅクから打算して盡きぬ名殘を回床に惜んで、屠蘇、雜煮に一家水入らず芽出度大御代の萬歲を讀き奉り 聖上皇后兩陛下東宮兩殿下の御像を拜して出で立つ、白きものは雨と化して氣甚く温し。

雨雲低く垂れて南山、北岳の姿も見ねず戸毎に飜る旭日旗の其紅きが門松の綠なるに對す『元日に田毎の日こそこひしけれ』とものせられし翁を地下に起たしむ能はざることを憾みなれ。

未だ懸はざれど南大門外の道路の廣く危險なきに禦者が顔の平和、電車の響鈴も物靜かに讓護輸の人力車の鈴も人を驚かさぬまでに。

雨は降れども人の袂を霑ほすに至らずホロリ／＼と落ちかゝりて屠蘇に紅き頬をうつを快しと微笑みつ驛に入る。

往く人も來る人も徹しと見わつ驛の物靜かなり、元の朝鮮新聞主筆木塚古怪庵子あり元の龍山日の出新聞社長新橋榮次郎氏あり總督府會計課員田中半四郎氏一行あり、木塚氏は新橋氏の北行を見送りの爲めにして他は悉く僕と齊しく鴨綠江の橋と氷とを見物の爲めなりと號して居る、而して其田中君一行の旅行振の物々しさ恰も**京都人**の花見行の如だ、金釜の一升徳利二本は既に待合室に於てゴロ付く、田中君曰く『君はモウ一兩日前出發されて居た……何所迄通しますか』と僕は曰く『安東縣まで』田『安東縣は何家へ』記『サア其所までは決定せず』だ『ハーア』と云つた田中君の胸裡に潛む所のもの決して洞察するに難くない。

冬の朝の而して穩かな空氣を搖がして發車の警鈴は烈しく緩く響き渡ると恰も磁石に吸る、鐵の粉の如にゾロ／＼と改札口を車室に流れ込む、寒暖計は七十度に騰つて居る、少し暖か過ぎると贅澤な不平の聲が揚るとコト／＼と窓を開ける音が其所此所に聞ゆる。九時正四十分、帛を裂く如な發車の令笛と共に列車は音も無く風に逆ふて北に動く。二等乘客外人二、淸人一、日人九、一等乘客なし

●紫女郎の驅落（淸月樓）

▽不心得な憲兵上等兵

新町遊廓淸月樓に紫と呼ぶ丸ポチャの愛嬌タップリの娼妓あり神奈川縣の生れ本名は松浦はると云ひ當年二十二才なるが四十二年五月前借金四百圓三ヶ年契約にて淸月樓に抱へられ同樓内にて賣娼の一人なりしが其紫の下に昨年二月頃より陸軍憲兵曹長なりと自稱する京城第一憲兵分隊付上等兵西谷槌衛門（當年二十七才）が繁々通ひ來り互に深くなり情死をも爲し兼ねまじき程の交情となり居りし事とて仲居も紫に時々注告なし居たり然るに西谷上等兵にはみつのと稱する親から貰ひ與へられし妻ありて當年六才になる年太郎と云ふ息子さへある身分なるにも係らず紫に無中になり身分不相應の借財をも作り妻みつのは仕方なしに郷里親元より衣裝代補助若しくは病氣なりと稱し生計費の補助に送金を受けし事も屢々なりきと然るに去る十二月三十一日午後三時頃紫は新町病院に朋輩が入院中なるより見舞に行くと稱し家出したる儘歸り來らぬを張店時間になりて發見したるより紫の部屋調べを爲したるに情人西谷槌衛門さんと逃走する旨の遺書ありて荷物の如きは大抵持出したる形跡あるより早速憲兵隊に付西谷なるものの有無と紫の遺書を屆出たるより憲兵隊にては官憲の威信に關することとて調査したるに西谷は妻みつのに宛て自分儀淸月の紫と深しくなり切るに切られぬ変情となり已なく情死と決したれば息子の年太郎を無事に養育して親に孝行して呉れ云々の遺書を發見したるより憲兵隊にては直ちに各警察署に移牒し逮捕手配を爲し第一分隊よりは板倉特務を京義線方面に出張せしめたりと因に年太郎はお父さんはピストルを持つて暴徒討伐に出張し居ると云つて居る由なりとは氣の毒なり猶西谷は金百圓餘を紫は五十圓餘を所持せる如くなりと

●新年初頭の市況

▽花々敷諸商店の初荷

迎春準備に忙殺された大晦日の夜は次第に更けて掛取の足音のみが巷に響く刻一刻壬子の歳は運づいて新天地の幕は東の空から徐ろに開かれた曠々たる旭日の光輝を見ることが出來ないで例年に無く暖かい初空は薄曇つて微雨を降らした昨日まで雜沓を極めた市街は一新して平和の氣が充ち滿ちてゐる松竹立て、注連飾りした本町通りは禮裝の男女が廻禮の足音も靜かに人々の顔には等しく希望と喜悅の色が溢れてゐる南大門通りより鐘路東大門より西大門に至る鮮人街にも日章旗朝風に飜りて瑞氣滿ちいとも長閑に見ゆ泥醉して通行の人に迷惑掛くる馬鹿者も無く／＼と靜粛に新春初頭の一日は暮れ夜に入りては青樓の階上より絃歌の聲が流れてゐた。

二日の曉天未だ暗く寒冷の氣骨を刺す午前三時頃より各商店は初賣りに賑ふて三越丸一山口各呉服店織居木島川島屋明治屋辻屋青木堂井出等の各店には各時計店其他やま玉足袋塚谷洋品店穐顧客が群集してゐた一般に暮れには實用的な品が賣れたが此日には比較的高價な贅澤品の賣れ行き盛んなりしとて不景氣を嘲ちし人等も漸く愁眉を開いた午前九時頃には各商店共に戸を鎖した南山を包んだ曉靄うすれて旭光サッと天地に輝く頃山邑支店大塚支店の兩酒店をはじめ井出百貨店三友商會やま玉足袋大上商店等何づれも商品を山の如く積み重ねたる初荷の荷馬車數十輛赤鉢卷姿威勢よく一層の景氣を添へたり三日も各店多くは休業して祝意を表し居たり四日は等しく店を開いて沈衰したる去歳の景氣を挽回すべく熱心に立働く店員の姿が目を惹く

●消防出初式

▽京龍聯合試演會

例に依り四日警務總監部前廣場に於て消防出初式擧行されたり最初午前九時各所の警鐘響き渡るや京城消防組第一第二第三の各部龍山消防組常備消防隊及び東部消防組第一第二部麻浦消防組等隊伍を整へ警務總監部に參集し豫定の場所に整列し午前十時寺内總督の臨場されしに當り指揮官黒石中尉の號令にて一同最敬禮を爲し十時十分明石總長は黒石指揮官の先導に依り亥角保安課長小熊保安部を隨へ各組及消防署員の檢閲をなし終て中央の壇に立つて一場の訓示をなし終て警視は鮮人側消防夫の爲めに之を通譯し次に秋吉京城組長以下各組長に目録を交付して式を了り直ちに餘興に移り各組の梯子乘り、射水競爭常備消防隊の器械梯子應用放水輕便消防器の實地應用等あり午前十一時餘興會は終了し寺內總督退場後明石總長寄贈の酒樽を各組に分配し後京城消防組を先頭に總督邸に至り再び梯子乘等の餘興を演じ十二時總督邸を出づるや各組各個の行動を取り市中を練廻りたり

●鼠（落語）

中檢 櫻川 圓好

京城新報社のお好みに依つて子の歳のお話を一寸申上げます 鶴『ヤア目出たう チウ太『オー誰かと思つたら鶴さんチャチーか、何んだつて今年はお互の持場だからウンとお金を儲けなくちゃならないよ、時に鶴さん君は何が一番好きかい 鶴『僕は世の中に酒ッ位結構なものはないね チウ太『ハ、ア全体何れ位呑るのかい 鶴『兎に角僕は丹頂呑めるね、 チウ太『始めて承るね、君は酒が好きなのかい、アノ君の兄弟分の龜さんが好きだと思つて居たがヘー君も酒が好きかね 鶴『今年一パイ一パイ酒が好きなんだよ チウ太『ナゼ今年一パイ一パイ酒が好きなんだい 鶴『デモ今年は松の上の鶴だからね、處でチウ太さんお前さんは一体何が好きだい チウ太『僕は世の中に一番すきなものは何んでもモチの付く者が好きだね、先ヅ槍持、金持、長持、錢餅、ソウ云ふものが一番すきだ、鶴『ソリヤチゲーチ、鼠にお備餅は付きものだから鏡餅は好きだらう、時に元日早々餅や酒やばかり飲み食ひして居ても面白くはね―一層藝者でも上げてチャン／＼と大陽氣にやろうぢゃないか チウ太『僕はツノね、藝者は大嫌いだ 鶴『藝者がナゼ嫌ひなんだ チウ太『ヨク考へても見給へ、鼠の前に猫を呼ぶのは殺生だろう 鶴『チゲーチー此れは僕が惡るかつた チウ太『鶴さん藝者のね、代り位は僕だつてするよ 鶴『ヘーそれでは手前三味線を引くかい チウ太『ナーニ少し嚙ヂルばかり。

子歳藝妓の氣焰

會員 井門鶴吉、清水席權助、玉家伊達子、開進亭榮、浪華亭金五郎、さん子

清水席の權助

トン／＼一つ衿を突いて小珍毬とした身体を乘り出した、前以てお斷り申して置くが此奴身体に似合はぬ大口を叩く女『鶴吉さんは愚痴と山の芋が嫌いだつて、ヨイショ賴母しいね、情人が其通りだらうぢやないか、思ひ出させるねお、應うしよう、寧そ自惚だよお手許は御面倒ながら一つお酌を願はすよ、ナーミナミと、アヲ客々しなさんなことサ、少々位散つても零れても關はないよ、曇は亭樓の物酒は其方の物だらうぢやないか、遠慮深いよ主ア』と立板に水の辯で『お見立に與つた子歳藝妓、御不足かは知らないが此所邊がお手頃でしよう、斬れば血の出る人間を捉へて堅くなれ堅くなれと踏むやら押すやら蒟蒻玉おややあるめわし人面白くもねえ、香も灶けば屁も放らうでさう、月經の止まつた尼さんおやあるまいし香斗り灶いて居られる人間が何人あると覺召すよ、第一が御自分にしてからがサ、腹が立つと、怒つて見ても嫁はなしだ、兎に角明けましての子の春は一つ陽氣にお願ひしますよ、過つて改むるに憚る事勿れだつて自席の見でさね申して居ますよ、前祝に一つ大きい奴でコー云ふ風に』と威勢が好い。

●仁川の消防出初

仁川署にては例年の通り四日午前八時常備消防及義勇消防隊の出動式を府廳構内に於て擧行し終て十時半新町燒跡廣場に於て消防演習をなし義勇消防隊は同十一時より市中を練歩き梯子登り等をなし午後三時頃無事終了せり

●新年の龍山市況

▽淋しい三ヶ日

龍山市街に於ける新年の狀況は昨年と大差なく商家は元旦休業二日は賣出しにて舊龍山元町二丁目日韓組其他の二三米穀雜貨店は數臺の荷車に白米醬油等を滿載して市中を練り廻り又京城商人の二三の者は龍山に初荷を送りたるものありき又桃山遊廓は平日より五割增の收入あり舊龍山龍山座は元旦より引續き大入叶との事なり質屋は入質は相應にあるも昨年に比し形勢宜敷からずとの事是れは警察署に於て先頃來より賭博取締を勵行せし結果にもよるならんとの事なり

●女賊 京城旭町二丁目廣瀨館止宿東京府生れ勝村ロシ（四六）は一日午前十時頃家人の隙に乘じ手提金庫在中金八十五圓を窃取し南部署に捕はれ檢事局に送らる

●强制 京城御成町居住愛媛縣平民永易勇吉（二五）は一日午前五時頃より本町六丁目の各戸に起上小法師を配付し寄附を强請したるより南部署に告發され拘留三日に即決

●ボヤ 若草町二丁目金錫永（三九）方は二日午後五時五十分温突より發火し半燒にて鎭火せり

●演藝だより

▲壽座 若島屋一座五六兩日の替り狂言は『玉藻前』大序より那須野ケ原殺生石迄を演ずる由

▲歌舞伎座 改成義團一行の五日六日の藝題は『女の望』七幕なり

●中券藝妓の席順

▽七十本匿してた政子

押し詰つた押し詰つたと馬鹿に押し詰つて居るのは押し詰らぬ財布の響の輕きが持上る愚痴暖び、實際全くの所は左樣でも御座らぬ次第を茲に御披露申して試よう、と申すと篦棒な堅い文句な樣でムるが堅いか柔かいかは御覽下されば判る中券十二月中の働き高は松葉の**照羽**を一番として掬翠の**染**は二番三番の井門の**政子**實は一番を覗つて二十八日まで七十本の花をタメて居たのなるが照羽の策戰計畫圖に當つて遂に蹴落されたのとはお氣の毒と申して置いて、扨同じ松葉の**時松**が四番と下つたは可哀相だが同じ家の**光奴**が五番と續いたのは同家の爲めに萬歲を唱ふる價値あるべしと申す扨六番より三十番迄を報道すると

たも茶（掬）勝利（花月）茶羅丸（松）靜子（掬）君奴、小高（花）鶴香（井）福助（花）政菊（淸）若子（花）勝子（松）金彌、光菊（花）江戸奴（掬）小政、小達磨、若一、鹿の子（花）雛子（掬）福龍、勝次、一奴（花）金五郎（淸）君子（掬）

謹賀新年

日韓瓦斯電氣株式會社

東京本店 電話(東京本局)二九七三番
馬山支店 電話(馬山)二五三番
本町陳列所 電話(京城)一〇一番 一八五五九二番
龍山出張所 電話一六〇番(宿直用) 三六二五七九番
發電所 電話(龍山)六六〇番
瓦斯製造所 電話(龍山)一一三番

謹賀新年

營業項目

家畜の飼養蕃殖
牛乳の搾取販賣
乳牛及朝鮮牛の賣買
種豚、山羊、家禽種卵の販賣
牛皮骨臘肉粉の賣買
化成事業
附屬家畜病院
其他畜産に關する事業一切

朝鮮畜産株式會社

本社(牛乳部 家畜病院) 京城古市町九番戸 電話八八番
出張所 皮革部 同 水標橋
同 化成所 同 西大門外阿峴
同 活牛部 大邱明治町